

# ごみ焼却場甘南備園建てかえ問題について

## 日本共産党京田辺市議会議員団の見解

### (1) なぜ今ごみ焼却場建てかえが問題なのか

甘南備園は、1986年に稼働し、現在まで28年間稼働してきました。この間ダイオキシン削減対策、煙突修理等改修・補修工事が行われてきました。しかし、経年的な老朽化が進む中、現施設に代わる後継施設が必要になっていきますが、2013年の定期検査の結果約10年後まで延命することになりました。

焼却施設の建てかえには、約7～8年かかる（施設基本計画に1年、測量・地質調査に1年、生活環境影響調査及び都市計画決定に2年、施設の発注業務等に2年、施設の建設工事に3年）ため、2014年9月に市ごみ減量化推進審議会が市長に対して後継施設建設について、「広域化の取り組み」が望まれるとする答申を出しました。

その結果を受けて、市はごみ処理後継施設を京田辺市単独で行うのか、枚方市との広域化を進めるのか、について方針決定をするようになります。

市が甘南備園建てかえをどのように進めるのか。市民に情報公開し、説明責任をしっかりと果たした上で、市民合意を図ることが必要と考えます。

### (2) ごみ処理問題は今後30～40年先

#### のまちづくりの重要な課題

市のごみ総排出量は、市民の意識の向上から人口増加の下でもほぼ横ばいで、一人1日当たりのごみ排出量は、平成17年の1019g/人・日をピークに、平成25年は869g/人・日に減量化されています。

市民意識の向上や、この間のごみ問題に対する理解と努力が成果をあげてきていると考えられます。

しかし、大量生産大量消費の現代社会の中にあつて、さらなる循環型社会、環境にやさしいまちづくりを進めることが求められていると考えます。市民の積極的な参加はもとより、ごみの発生を抑える企業・業者の責任など今日のごみ問題を考え、実践していくことは沢山あると考えます。その意味で、ごみ問題はこれからのまちづくりにとって最重要課題ではないでしょうか。

### (3) 市が市民的合意をはかる責任をしっかりと果たすこと

重要なごみ問題に対して、審議会の会議録は公開されていません。枚方市の審議会は、会議録がインターネット上で公開され、誰がどういう意見を言い、どんな議論がされ、結果がどうなったのかが手に取るようにわかります。京田辺市はこの点でもっと市民に開かれた、情報公開を行う必要があります。今回のごみ減量化推進審議会の答申内容を早く市民に対して公開し、丁寧な説明を行うべきです。

また、甘南備園近隣の4つの区・自治会（田辺区・薪区・興戸区・一休ヶ丘自治会）のみに説明（回覧）を行っていますが、甘南備園建てかえ問題は京田辺市民全体の問題であり、すべての区・自治会に対して丁寧な説明を行うべきと考えます。

そして一方通行の情報公開でなく、疑問や意見、市民要望などもやり取りできる双方向の情報交換、意見交換が必要です。その上で、時間をかけて、丁寧な説明と市民参加による甘南備園建てかえができる事を望むものです。

### ◎この間の経過と検討する上での資料

#### \*市ごみ減量化推進審議会の答申の一部

9月26日、京田辺市ごみ減量化推進審議会は、石井市長に対し、「ごみ処理施設整備基本構想について」答申を提出しました。答申内容は以下4項目です。

①新たな分別収集区分の設定について、ペットボトルを除くその他プラ容器の分別に取り組むこと。及び、古紙類の集団回収未実施地域について、民間業者の活用並びに行政による回収を検討する。（略）

②ごみ処理施設（中間処理施設）について、確実に安定して処理できるシステムを選択し、検討した結果、**熱回収施設（焼却、ガス化溶融等）が妥当。**

【熱回収施設とは、ごみ焼却炉と、焼却灰を高熱で溶かす施設のこと】

最終的な選定に際しては、環境面や経済面、また、循環型社会形成への貢献など、さらに幅広い視点から比較評価を行い決定するよう求める。



日本共産党京田辺市議会  
議員団ニュース

第1001号 2014年10月19日

連絡先：日本共産党山城地区委員会 Tel.98-3883

市役所議員控室 Tel.63-1122（内線522）

③甘南備園後継施設（施設更新）の適地について、現甘南備園（拡張を含む）の地域が最も適している。

④ごみ処理広域化について今回の審議の中では、京田辺市単独処理した場合と広域処理を行った場合との比較検討の結果、

〈1〉環境保全性は、規模の大きな炉でより多くのごみ処理を行うことに伴い、燃焼の安定性が向上し、環境保全対策が容易になること。

〈2〉資源循環性においても、発電等による効率的な余熱利用が可能になること。

〈3〉経済性においては、施設整備費についてスケールメリットや国からの支援が受けやすくなること、維持管理費についても施設の集約化に伴う削減効果が期待できること、などから、**広域処理の優位性が高いと考える。**幅広い見地に立って広域処理の具体化に向けた取り組みを進められて行かれることを望む。

\*市は今後、この答申をもとに、11月頃に市民の意見を聞く場を設け、単独か広域かの判断を下すとしています。

今回、審議会答申が出され初めて市民が、ごみ処理施設建てかえ問題を考える場が示されました。日本共産党市議団は、この問題に対する市民間の議論を活発にし、ごみ問題や、ごみ焼却に対する将来を考えた議論を幅広く展開したいと考えています。

以下、9月議会での市の答弁も示し、市民にとって、広域化とは具体的にどうなるのか、将来展望についても議論を進めたいと考えています。

**\*甘南備園建てかえ問題での市の答弁**

（9月議会での市側〓副市長・経済環境部長）

**副市長**

枚方との関係は最終結論が出ていない。一番大事なのは、市民の皆さん方の合意を得ること。市民の声を直接聞く場を設け、わかりやすい資料提示を行い、皆さんのご理解を得ていくという手続きを踏んだ上で最終決定していきたい。

**経済環境部長**

広域化の対象施設は、甘南備園と枚方市穂谷清掃工場である。広域共同施設建設規模は180t、京田辺70t、枚方110tという基本計画の数字である。

枚方市は、穂谷地域での焼却施設建てかえはしないと表明されている。広域共同施設建設場所は、京田辺市は現甘南備園、枚方市は東部地域となる。両市とも新たに施設建設の土地拡大が必要となる。

経済性の問題では、国の交付金制度が26年度から変えられ、熱回収率10%を満たさない場合は、交付金が受けられなくなった。通常100t炉以下では熱回収が非常に難しい。

## ◎審議会答申をめぐり、暮らなくを促す

①単独で建てかえをすると、1日当たりのごみ焼却量は向こう30年間10t減ることになります。しかし、単独では、費用面、環境面、などで大型炉と比べ課題があります。

②広域化で共同施設にする場合は、京田辺70t、枚方110tの計180tの焼却炉を、京田辺地域の甘南備園か、枚方市の東部地域のいずれかで敷地を確保して建設することになります。その際、京田辺市で先に建設すれば、30年間運転し、枚方市のごみ110tを焼却することになります。

③30年後の枚方市の人口は、現在の約40万人から、6万人減少するという人口推計です。そうすると、焼却炉は京田辺市の人口分70t減ることになり、180t炉は大きすぎて、将来は縮小することとなります。こうした将来予想、展望を検討する必要があります。

④広域化すると、対等平等の関係が担保されるのか。枚方市は、京田辺の約6倍の規模となっています。事務組合や、議会など運営形態がどのようになるのか検討する必要があります。

⑤京田辺市のごみ減量化推進審議会は、枚方市のごみ問題や、枚方市の審議会の答申内容を議論、審議した形跡がみあたりません。【9月26日京田辺市の審議会会長の弁より】

\*9月3日に、枚方市の審議会の最終答申が出されました。広域化の部分を一部抜粋すると「本基本構想では京田辺市との可燃ごみの広域処理の可能性追求を望ましいとしてきたが、他市との広域処理についても可能性が残されている。これまで近隣都市との可燃ごみの広域処理は、施設の更新時期の制約、穂谷川の延命が出来るかという問題があったから実現されなかつたけれども、その可能性を求めて、周辺各市との情報交換、連携を強め、施設の延命などによる更新時期の調整を行うことによつて、施設統合によるスケールメリットを確保すること等を検討することが望ましい。国、府の広域化計画とも調整しながら、効率的な処理体制の整備を図らなければならない」

「京田辺市との可燃ごみの広域処理の可能性追求を望ましいとしてきたが、」という表現は、京田辺との広域化に消極的な態度であるようにも読み取れます。枚方市は、東部地域や京田辺市では、運搬費用、時間が長くなり必ずしも利便性が高いとはいえないと考えます。相手の動向も検討すべきではないでしょうか。